

平成22年4月30日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19520389

研究課題名（和文）日本語的発想と表現との関係に関する対照談話論的研究

研究課題名（英文）Research on Japanese cultural attitudes and language expression viewed through the contrastive discourse theory

研究代表者

沖 裕子（OKI HIROKO）

信州大学・人文学部・教授

研究者番号：30214034

研究代表者の専門分野：日本語学・日本語教育学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：談話，談話論，発想と表現，結節法，方言，方言と日本語教育，依頼談話，申出談話

1. 研究計画の概要

対照談話論の観点から、日本語的発想と表現との関係について、次の4点について記述分析し、考察する。

- (1) 日本語における地域方言、社会方言、機能方言とそれらの関係について整理し、外国人日本語も含めて、位相のあり方について考察する。
- (2) 選択的単位である文、節、句と、それらを構成している素材的単位である語や形態素との意味の関係、および談話における意味産出のあり方を記述し、形態と意味の両面から、日本語的発想について、分析、考察する。
- (3) 談話を構成している、語、句、節、文がどのように組み合わせられると日本語らしい発想の談話展開になるかを、分析、考察する。
- (4) 中国人日本語話者と、韓国人日本語話者、および日本語母語話者の談話展開の傾向を分析し、日本語学習の上で間違いやすい点をできるだけ整理して示す。

2. 研究の進捗状況

日本語的発想と表現との関係について対照談話論的に明らかにすることを目的とし、次の研究成果を得た。

- (1) 地域方言、社会方言、機能方言によって異なりを見せる具体的単位である談話を適切に生成するためには、言語記号の意味そのものについて知るとともに、場面の有する意味を捉える必要がある事を指摘し、これを「事態認識（＝事態

の見立て）」という概念で明確化した。

- (2) 言語表現そのものとともに、事態認識のありかたには、種々の方言差があることを明らかにした。
- (3) 動態的言語観である結節観から談話を考察し、談話推進において実現する同時結節において、言語的諸単位がどう関係するか、理論的に整理した。
- (4) 『方言文法全国地図』の資料を用いて、談話表現に、地理的分布が発見できることを実証的に示した。談話を構成している、形態素、語、句、節、文の結節法から談話の分析視点を設定し、その結果として、日本語内の発想と表現の方言差を指摘しえた。
- (5) 日韓中にエティックに共通する場面であっても、場面ごとのイーミックな価値は異なっており、それに応じて談話展開が異なることを明らかにした。たとえば土産を渡す場面では、「土産」という物そのものの社会文化的価値が日韓中で異なり、場面の意味自体に相違が現れるとともに、それに起因して、言語を用いた談話展開にも差が現れることを具体的に指摘した。文化的発想と談話表現との関係の考察において、新たな分析視点と方法を開発した。
- (6) 中国語、韓国語を母語とする日本語学習者が日本語を習得する際に、間違いやすい談話表現や談話行動が存在するのはなぜかを、同時結節モデルから考察した。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

(理由)

当初の計画では、「1. 研究計画の概要」に記した(1)から(4)を、おおよそ年度ごとに進行させる計画であったが、すでに、(1)から(4)のすべての観点について研究が進展し、「2. 研究の進捗状況」に記したように、(1)から(6)の具体的成果を得ている。そのため、これらの成果を活かし、各課題を深化させつつ、知見の体系化へと向かう可能性が開けてきている。

4. 今後の研究の推進方策

国際的議論の場を継続して形成しつつ、作例談話資料の多角的、体系的収集を充実させ、それを用いて理論の検証を継続して行う。また、研究最終年度にあたり、日本語外言談話行動に通底する抽象的秩序の発見と記述をめざす。さらには、行ってきた研究の位置づけを再確認しつつ、新たに発見した課題を含めて、今後の研究的方向性について整理をする。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 沖裕子・姜錫祐・趙華敏・西尾純二、「日韓中の外言談話にみる発想と表現—日本語と日本語教育のための基礎的研究—」『人文科学論集<文化コミュニケーション学科編>』信州大学人文学部紀要、第44号、pp. 1-25, 2010, 査読有
- ② 沖裕子、「発想と表現の地域差」『月刊言語』大修館書店、第48巻4号、pp. 16-23, 2010, 査読有
- ③ 沖裕子、「各地方言から見る「方言文法全国地図」中部(長野・山梨)方言」『月刊言語』大修館書店、第26巻第11号、pp. 180-181, 2008, 査読有
- ④ 沖裕子、「談話論からみた方言と日本語教育」『日本語教育』日本語教育学会、第134号、pp. 28-37, 2008, 査読有

[学会発表] (計4件)

- ① 沖裕子、「日本語依頼談話の結節法」、第21回韓国日本語学会、2010. 3. 20, 大韓民国ソウル特別市
- ② 沖裕子・趙華敏、「発想と表現からみる日本語依頼談話のしくみと指導」、第5回中国日本語教育研究国際シンポジウム、2009. 12. 13, 中華人民共和国上海市
- ③ 沖裕子、「同時結節という言語観」、愛知教育大学国際教育学会(招待講演)、2008. 2. 16, 愛知県刈谷市

- ④ 沖裕子、「日本語談話論」、北京大学招待講座、2007. 10. 9-10. 17, 中華人民共和国北京市

[図書] (計2件)

- ① 沖裕子、桂書房、「気づかれにくい方言「それで」」『山口幸洋博士古希記念論文集 方言研究の前衛』、2009, pp.304-322
- ② 沖裕子、ひつじ書房、「談話論からみた「文」と「発話」」『シリーズ文と発話2 「単位」としての文と発話』、2009, pp45-69

[その他]

ホームページアドレス

<http://fan.shinshu-u.ac.jp/kyouin/oki/>

信州大学機関リポジトリアドレス

<https://soar-ir.shinshu-u.ac.jp/>

信州大学研究者総覧アドレス

<http://library2.shinshu-u.ac.jp/soar/>